

四月二十四日午後

六會金支辨日

辨前並り手前日朝エリ手前日朝四時イセ」

三 種 業 務 開 始 五

又 手 中

捕守控へ人ニ機シテハ案背離也」

六 案 背 離 也

一々日書問答ニハ日儘三日迄マ支離セ」

五 書 問 答 與

五二回イシテ貴冊其類以支離セ」

四 書 問 答 與

又 手 中

財團法人協調會大阪支所

會社側ハ直チニ之レヲ受理シ十二日正午回答ノ旨ヲ答ヘタガ歎願書ヲ拒絶セザルコトハ會社ガ早晩解雇退職手當ヲ制定スル必要アルコトヲモ感ジテ居ツタ結果モアツタ只成ル可ク圓滿ニ解決スベキコトヲ力説シテ組合ノ自重ヲ促シタ

十一日八日曜日ナルニ拘ラズ業務多忙ノ結果操業シタガ半怠業ノ状態ニ在ツタ

十二日朝ヨリ怠業ノ状態ハ更ニ其度ヲ増シ全然所定ノ位置ニ就カザルモノガ多カツタ。茲ニ於テ會社側ハ職工ヲ集合セシメ自重ヲ促シタ而シテ若シ組合側ニ於テコノ状態ヲ持續スル場合會社トシテ交渉ニ應ゼザルコトヲ言明シタ

一方組合ハ大矢省三、松井直一ヲ代表者トシテ會社側ト交渉シタ結果會社側モ相當條件ヲ容ルル態度ヲ明カニシタノテ懇談的ニ解決スルコトトナリ組合側ハ罷工基金ノ拂戻ヲ行ナツタ。正午ノ回答ハ無カッタガ斯クシテ條件ニ就テ遂次兩者ノ懇談ヲ續